

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	国際経済学 (International Economics)					担当教員	広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2037-1-23-090	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL
	2437-1-23-029	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		

① 授業のねらい・概要										
国際経済を構成する各エリアの経済の特徴と各エリア間の相互連関、さらに国際経済学の理論を学習することによって、国際経済を分析する思考力を養う。具体的には、国際経済の各エリア別の特徴を過去・現在・未来の視点から包括的に考察する。第2に、各エリア間の連関を投資の視点から分析し、第3に、現象の本質を明確化する国際経済学の理論を学び国際経済への思考力を高める。										
② ディプロマ・ポリシーとの関連										
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業										
③ 授業の進め方・指示事項										
国際経済学・国際経済の多様な現象に関する課題を学びながら、各自が独自の思考で確固たる意見をもつことが重要である。よって、頻繁に質問し、意見を求め、討論を促す授業を展開するので、積極的に発言すること。										
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能										
ミクロ経済学・マクロ経済学										
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。										
毎回学習資料を配布する。										
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。										
古沢奏治(2022)『国際経済学入門』新世社										
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)										
国際経済学を通じて、世界の経済を広範に学習し、現象の本質を抽象化した高度な理論を学ぶことで、世界的視野から過去・現在・未来を俯瞰的にみれるような能力が身につくような授業を今後も志向する。										
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安										
(1) 国際経済を構成する各エリアの経済の理解 (2) 国際経済の各エリア間の連関の理解 (3) 国際経済学の理論の理解										
⑨ ルーブリック										
評価基準	S		A		B		C		D	
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している		到達目標を達成している		到達目標達成にはやや努力を要する		到達目標達成には努力を要する		到達目標達成には相当の努力を要する	
(1)	国際経済を構成する各エリアの経済の理解	国際経済を構成する各エリアの経済の理解に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	国際経済を構成する各エリアの経済の理解に関して、資料等に頼らず説明できる。	国際経済を構成する各エリアの経済の理解に関して、資料等を参照しながら説明できる。	国際経済を構成する各エリアの経済の理解に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	国際経済を構成する各エリアの経済の理解に関して、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。				
(2)	国際経済の各エリア間の連関の理解	国際経済の各エリア間の連関に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	国際経済の各エリア間の連関に関して、資料等に頼らず説明できる。	国際経済の各エリア間の連関に関して、資料等を参照しながら説明できる。	国際経済の各エリア間の連関に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	国際経済の各エリア間の連関に関して、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。				
(3)	国際経済学の理論の理解	国際経済学の理論に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。	国際経済学の理論に関して、資料等に頼らず説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しながら説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しても、教員等の支援を得ても説明できない。				

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	45%		30%		25%		100%	
(1) 国際経済を構成する各エリアの経済の理解	15%		10%		15%		40%	
(2) 国際経済の各エリア間の連関の理解	15%		10%		5%		30%	
(3) 国際経済学の理論の理解	15%		10%		5%		30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	課題についてコメントを行い討論のベースとして紹介する。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	イントロダクション・国際経済の発展過程	国際経済の発展過程に関する考察課題						240分
2	世界のエリア分析の手法	世界のエリア分析の手法に関する応用問題						240分
3	エリア・スタディⅠ（中国）	中国経済に関する考察課題						240分
4	エリア・スタディⅡ（南アジア・中央アジア）	南アジア経済・中央アジア経済に関する考察課題						240分
5	エリア・スタディⅢ（中東）	中東経済に関する考察課題						240分
6	エリア・スタディⅣ（欧州・アフリカ）	欧州経済・アフリカ経済に関する考察課題						240分
7	エリア・スタディⅤ（米国・オセアニア）	米国経済・オセアニア経済に関する考察課題						240分
8	開放経済と外資導入	外資導入の効果に関する考察課題						240分
9	外資導入と誘致インセンティブ	誘致インセンティブに関する考察課題						240分
10	誘致インセンティブの国際比較	効果的な誘致インセンティブは何かを考察する課題						240分
11	国際経済学の理論Ⅰ（自由貿易理論と保護貿易理論）	自由貿易理論と保護貿易理論に関する考察課題						240分
12	国際経済学の理論Ⅱ（国際投資理論）	国際投資理論に関する考察課題						240分
13	国際経済学の理論Ⅲ（為替レートに関する理論）	為替レートに関する理論についての考察課題						240分
14	国際経済学の理論Ⅳ（国際寡占に関する理論）	国際寡占に関する理論についての考察課題						240分
15	まとめ	人類総体の幸福につながる国際経済を考える課題						240分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型ALを採用する。授業内容を受けて、各自が独自に調査し、考察する過程で、現象の奥にある本質を見抜きながら、独創的な提案ができるほどの高度な思考力が身につくような授業を志向する。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性